



多摩市男女平等・男女共同参画情報誌

# たまの女性

Velkomin til Tama!

ようこそ、多摩へ!



～アイスランドから学ぶジェンダー平等～

対談

レイキャビク市長 ヘイダ・ビョルグ・ヒルミズドッティル

×

多摩市長 阿部 裕行

# アイスランドの首都レイキャビク市の市長が多摩市を訪れました！

大阪・関西万博にあわせて来日したアイスランドの首都レイキャビク市のヘイダ・ビョルグ・ヒルミストッティル市長は、令和7年5月28日に多摩市を訪問し、双方の友好関係を構築するための覚書をパルテノン多摩で締結しました。



レイキャビク市 ヘイダ市長(中央左)、多摩市 阿部市長(中央右)

覚書締結にあたり、「男女平等に関する取組」や「子どもたちの交流」などをテーマに両市長で意見交換が行われました。「たまの女性」からも2つほど質問をさせていただきました！

## 対談 ～アイスランドから学ぶジェンダー平等～

お互いの良いところを学び合い、お互いのまちのさらなる発展につなげていければ

### 阿部市長

多摩市は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機にアイスランドのホストタウンとなり、大会終了後には駐日アイスランド大使館と「友好協力関係に関する覚書」を締結させていただきました。そしてこの度、アイスランドの首都レイキャビク市と「友好関係構築に関する覚書」を締結することになりました。

本日はレイキャビク市のヘイダ・ビョルグ・ヒルミストッティル市長をお招きし、今後両市が友好関係を築きながら、お互いの良いところを学び合い、お互いのまちのさらなる発展につなげていくためのお話をしたいと思います。

### ヘイダ市長

まず初めに、私たちに対して温かい歓迎をいただきまして心より感謝申し上げます。また、東京2020大会の際には選手たちを温かく迎えていただきありがとうございました。日本に新たなホームができたことをうれしく思います。

これからも、文化的なことなど、様々に相互理解を深めていき、双方の発展のために取り組んでいきたいと思っています。この度の覚書の締結をととても良い機会ととらえています。



多摩センターを視察する様子

## 「あなたがどんな人であっても、どこから来たとしても、ここでそのままの自分でいられる」

### 阿部市長

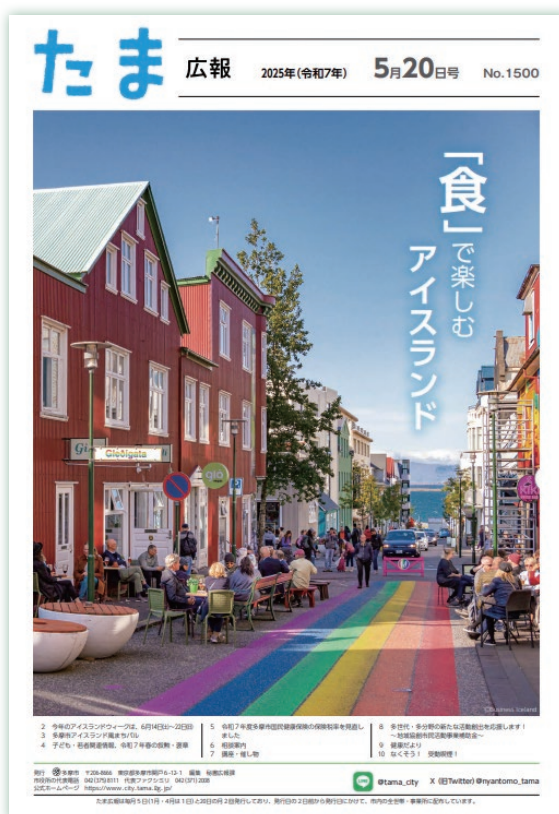
令和7年5月20日号のたま広報(注1)では、アイスランドの独立記念日の6月17日に合わせ、「食で楽しむアイスランド」の特集を組みました。

この、広報の1面に写っている、路上をレインボーカラーにペイントする取り組みは、ユニークでとてもチャレンジングに思いますが、レイキャビク市民の皆さんはどう感じていますか？

### ヘイダ市長

このレインボーロードはハットルグリムス教会に続く道にあるもので、10年前に始まりました。市民はこのレインボーロードが、平等や、都市の開かれた姿勢、そして「あなたがどんな人であっても、どこから来たとしても、ここでそのままの自分でいられる」ということの象徴だと感じています。

私は、このレインボーロードは「人権」そのものを象徴していると思います。多様性ということですね。性的指向が他人と違って、生まれたときと違う性自認を感じていても、そういったすべての人に対して、このまちでは「そのままでもいいんだよ」ということを示してくれています。それがとても大切だと思います。



注1 たま広報(令和7年5月20日号)

## アイスランドの女性の90%が、職場や家庭を出て、声をあげた

### 阿部市長

私はアイスランドに尊崇の念を抱いてますが、まずジェンダーギャップ指数で15年間連続世界ナンバーワンということについてお聞きします。(注:対談後に2025年のジェンダー・ギャップ指数が発表され、アイスランドは16年連続世界1位となりました。)

女性が社会で活躍するというのは当たり前のことなのですが、日本は残念ながら、依然として圧倒的な男社会です。アイスランドの男女平等が画期的に進んだのは、1975年の「女性の休日(女性たちによる大規模ストライキ)」からだと聞いています。

### ヘイダ市長

もちろん、女性たちは100年以上前から権利のために闘ってきました。でも、1975年の「女性の休日」では、アイスランドの女性の90%が、職場や家庭を出て「私たちも重要な存在だ。私たちがどれだけのことをしているかを見て、声を聞いてほしい」と声をあげたのです。それが大きな始まりだったと思います。

そして、そのすぐあとに世界初の女性大統領がアイスランドで誕生しました。まさにストライキの成果です。



覚書締結の様子  
お互いにプレゼントを交換



対談の様子

## ジェンダー平等を実現するうえで、市のような自治体の役割は非常に重要

### ヘイダ市長

ジェンダー平等を実現するうえで、市のような自治体の役割は非常に重要ですね。むしろ、国よりも重要かもしれません。というのも、自治体はとて多くの雇用者を抱えており、男性と女性に同一賃金を支払う責任があります。また、女性が働きやすくなるための政策も必要です。たとえば、保育園を整備したり、様々な支援制度を設けたりする必要があります。加えて、これらの制度が市民にとって利用しやすく、負担にならない価格で利用できる必要があります。そうすることで初めて、都市の中で本当の意味でのジェンダー平等が実現できるのです。

### 阿部市長

私は市長になって今4期目で、ちょうど15年経ちましたが、その前は、マスメディアの団体の事務局で働いていました。ちょうど30代の時、私は職場で初めて「男性の育児時短」を勝手に取得しました。当時は制度として男性の育児時短はなく、女性の育児休業さえなかった時代です。当然のことですが、私は処分の対象となりました（笑）。

私としては、まず市役所の職員たちが、育児に関わる時間をきちんと取れるようにしたい。それから市民の皆さんが、性的マイノリティ等を含む多様性をきちんと理解し、尊重することで、一人ひとりが「このまちのプレイヤーなんだ」という意識を持って過ごせるまちをつくらせたいです。

次の学びたいにつながるよう「たまの女性70号（令和5年3月発行）」（注2）では、グズニ・トルラシウス・ヨハネソン大統領と、株式会社サンリオエンターテインメントの小巻社長との対談を掲載しました。

これからもアイスランドの取り組みからぜひいろいろなことを学びたいと思っています。

### ヘイダ市長

ぜひレイキャビクにお越しただいて、そういったものをお伝えできる機会も設けられたらなと思っています。

## 新しい政策は、必ずジェンダーの観点から評価を実施

### 阿部市長

ジェンダーギャップ解消に取り組むために、ヘイダ市長として政策の中で意識されていることはありますか？

### ヘイダ市長

私たちには特別な評価システムがあって、新しい政策を立てたり、予算をつける際、必ずジェンダーの観点から評価を行っています。もし、あるジェンダーが他のジェンダーより不利になってしまう可能性があれば、何か改善すべきだと考えます。常にその点に気をつけているのです。

また、もっと平等な生活を促進することも大切だと思っています。仕事だけでなく、家庭でも同じです。男性も子育てや家事をもっと担うべきですし、それが彼ら自身の幸せにもつながると思います。だからこそ、市もそのような姿勢を促進し、父親が子どもの生活にもっと積極的に関わられるように取り組んでいます。もちろん、簡単なことではありませんが、最終的に求めているのは、みんなが平等な権利を持つことです。



注2 たまの女性70号

## 父親も母親と同じように育児ができる、という認識を社会全体で持つことが大切

### 阿部市長

アイスランドは、男女同一賃金を実現していて素晴らしいと思っています。

ヘイダ市長は、ジェンダー平等を目指すうえで、国より自治体のほうが力があると感じることはありますか？逆に、自治体では限界を感じることはありますか？

### ヘイダ市長

アイスランドには実質的に賃金格差はありませんが、例えば多くの女性がパートタイムで働いているという場合には、女性の給料と男性の給料を比較すると女性のほうが収入は少なくなります。また、依然として男性がビジネスのトップのポジションを占めているのも事実です。私たちは多くの進歩を遂げてきたとはいえ、まだ完璧ではありません。まずはこのことを伝えたいです。

自治体ができることとして、まずは保育園の枠を希望するすべての子どもたちに十分に確保することです。また、国は、育児中の収入減少に対してきちんと手当を支払うべきだと考えています。そうすることで、親同士が子育ての役割をより平等に分担できるようになります。

法律上は男女平等の権利があり、女性が男性と同じことをするのを妨げるような規定はありません。そうなると問題は、自治体の取り組みにあると思います。父親も母親と同じように育児ができる、という認識を社会全体で持つことが大切です。今、私たちはそうした制度や文化を整えているところです。

## 多摩市の子どもたちとアイスランドの子どもたちが交流できる機会を

### 阿部市長

これだけ地球温暖化が進んできて、子どもたちの未来も本当に心配です。今、多摩市では気候非常事態宣言を出していて、子どもたちにも、地球を守るために何が出来るのかといったことを考える機会を作っています。

地熱発電を利用した自然エネルギーなど、環境の面でもアイスランドから学びたいと思っています。多摩市の子どもたちとアイスランドの子どもたちが交流できたら、とても良いですね。

### ヘイダ市長

そうですね。子どもたちの交流については、本当に賛成です。アイスランドの子どもたちは、ハローキティやポケモンは知っているのですが、もっと日本人の文化がどういったものか、多摩市の方々がどういった生活をしているのか、学べる機会があれば良いと思っています。

ぜひ多摩市とアイスランドで相互に学べるような機会があれば良いと思っています。日本、そして多摩市のように教育レベルを高めていかなければいけないと思っています。



## 多摩市とアイスランドの関係

市長対談にもあったように、多摩市とアイスランドは、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会をきっかけに交流が始まりました。令和元年 8 月に多摩市がアイスランド選手団の事前キャンプ地に決定し、令和元年 12 月には日本で初めてアイスランドのホストタウンになりました。

令和 3 年 12 月には駐日アイスランド大使館と友好協力関係に関する覚書を締結し、令和 4 年 12 月にはグズニ・トルラシウス・ヨハネソン大統領（当時）が多摩市を訪問しました。たまの女性 70 号では訪問時に行った、株式会社サンリオエンターテイメント代表取締役の小巻社長との対談を紹介しています。（下記の 2 次元コードから「たまの女性 70 号」をお読みいただけます。）

多摩市では、アイスランドの建国記念日である 6 月 17 日を含めた前後 9 日間をアイスランドウィークとして、アイスランドへの理解を深めるための様々なイベントを行っています。

令和 7 年のアイスランドウィークでは、市内飲食店でアイスランド風メニューを楽しむ「アイスランド風まちバル」や市内小中学校でのアイスランド給食の提供、大使館職員による学校訪問や男女平等ワークショップ、たまこどもフェスでのアイスランド絵本・アニメ版のアフレコ体験、図書館での企画展示など、幅広いイベントを実施しました。

今後もアイスランド大使館との交流に加え、レイキャビク市民との交流を進め、一層アイスランドを身近に感じる機会を作っていきます。



アイスランド国旗とアイスランドを代表する鳥「パフィン」の置物



市内小学校で児童とともにアイスランド料理の給食を食べる駐日アイスランド大使（当時）



▲多摩市公式ホームページ  
アイスランド特設ページ



▲多摩市公式ホームページ  
男女平等・男女共同参画情報誌「たまの女性」を発行しています

## 「多摩市アイスランド風まちバル」が開催されました！

令和 7 年 6 月 15 日（日）から 19 日（木）に、聖蹟桜ヶ丘と多摩センターで「多摩市アイスランド風まちバル」が開催されました。

まちバル用のチケットを購入し、参加者たちは市内 18 店舗へ出発！ 各店が腕によりをかけて開発した、アイスランド風メニュー（アイスランドの食材やレシピを使ったオリジナルメニュー）とドリンクのセットを満喫しました。

「アイスランドの食材がこんなにおいしいなんて知らなかった！」「気になっていたお店に入るキッカケになった！」など、参加者からは喜びの声が続々！

アイスランド風メニューの「おいしさ」はもちろん、市内飲食店の「魅力」を再発見する、またとない機会となりました。



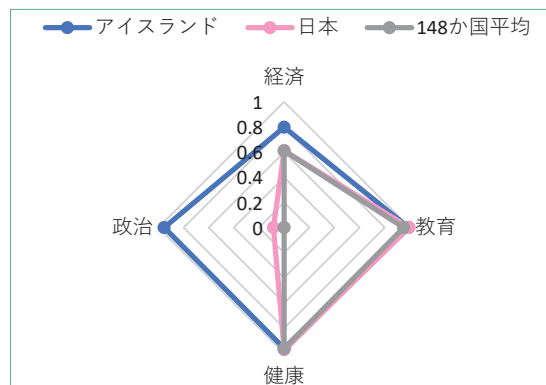
## ジェンダー・ギャップ指数って何だろう？

みなさんはジェンダー・ギャップ指数という言葉を知っていますか？

ジェンダー・ギャップ指数とは、正式名称を Global Gender Gap Index（世界男女格差指数）と言い、男女格差を「経済・教育・健康・政治」4つの分野で評価し、国ごとに男女平等の達成度を示した指標です。0～1の間で評価され、数値が1に近いほど男女平等が達成されていることを示しています。

日本は2025年の時点でジェンダー・ギャップ指数が0.666と148か国中118位です。指標の内訳は、経済が0.613（112位）教育が0.994（66位）健康が0.973（50位）政治が0.085（125位）となっています。

分野別	アイスランド	日本	148か国平均
経済	0.798(10位)	0.613(112位)	0.610
教育	0.990(81位)	0.994(66位)	0.951
健康	0.960(125位)	0.973(50位)	0.962
政治	0.954(1位)	0.085(125位)	0.229
総合	0.926(1位)	0.666(118位)	0.688



日本は、教育と健康の分野は高得点ですが、経済と政治の分野で男女平等の達成度が低い状況です。経済分野では「女性管理職の割合が少ない」、政治分野では「女性議員・閣僚が少ない、女性首相が過去に一人もいない」ことが達成度の低い要因となっています。

このように各国の男女平等の達成状況と平等が進んでいない原因を知ることができるのがジェンダー・ギャップ指数なのです。

このジェンダー・ギャップ指数ですが、多摩市と交流のあるアイスランドは16年連続で1位となっています。2025年のジェンダー・ギャップ指数は0.926と唯一0.9を超える結果を出しています。それはなぜでしょうか？その理由を考えようと、多摩市では、男女平等についてアイスランドに学ぶワークショップを開催しました。

## 「アイスランド×男女平等」ワークショップを開催しました。

令和7年6月22日（日）にアイスランドウィークの企画として、駐日アイスランド大使館の職員を講師にお招きし、男女平等について考えるワークショップを開催しました。このワークショップでは、学校や職場などで「男女それぞれに何が期待されているか？」をテーマにブレインストーミング方式で意見を出しあいました。

参加者からは「日本では性別によって期待される活躍が違ふと感じる」といった意見が出ました。それに対しアイスランドでは、「性別による期待は避けている。小学校・中等学校で男女平等について学び、それが当然だと受け止めている。」といったお話がありました。このように日本の現状とアイスランドの現状を知り、学びとなるワークショップになりました。



# TAMA 女性センター相談室のご案内

## ●女性を取り巻く悩みなんでも相談

面接予約専用番号 **042-355-2110**

受付時間 月～金曜日 9:00～17:00 (祝日・年末年始を除く)

女性を取り巻くさまざまな悩みやDVの相談等について、専門の相談員(女性・心理カウンセラー)が相談をお受けします。

面接相談(予約制) : 毎週火・金曜日 9:30～12:30

毎週土曜日 13:30～16:30

電話相談(予約不要) : 毎週木曜日 10:00～13:00 / 13:30～16:30

電話相談専用番号 : ☎ 042-355-2111

## ●女性のための法律相談

弁護士(女性)が、面接(予約制)で相談をお受けします。 毎月第3水曜日 9:30～12:00

## ●LGBT電話相談

豊富な経験を持つ専門の相談員が、電話で相談をお受けします(予約不要)。

毎月第3火曜日 偶数月(4・6・8・10・12・2月) 14:00～18:00

奇数月(5・7・9・11・1・3月) 16:00～20:00

電話相談専用番号 : ☎ 042-355-2112

## 読者アンケート募集



### 抽選でオリジナル アクリルキーホルダーをプレゼント!

たまの女性読者アンケートにご回答いただいた方の中から**抽選で10名**の方に、アクリルでできた**TAMA 女性センターオリジナルキーホルダー**をプレゼント!

このキーホルダーは多摩市オリジナルのレインボーフラッグと同じデザインで作られたものです。

いただいたアンケートは今後の事業の参考にさせていただくほか次号以降の「たまの女性」に掲載させていただきます。

なお、当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

(応募期限: 2026年1月31日まで)

読者アンケートはこちらから  
ご回答ください



## ▶YouTube

TAMA 女性センターを紹介するYouTube動画ができました。ワークショップルームやライブラリー等の施設も紹介されています。ぜひご覧ください。

CHECK!



▲YouTube  
多摩市  
公式チャンネル



TAMA女性センター  
紹介します

多摩市からのお知らせ

TAMA女性センターに行ってみよう編  
(多摩市からのお知らせ)



多摩市立TAMA女性センター  
東京都多摩市関戸4-72  
ヴィータ・コミュニエ7階  
☎ 042-355-2110

アクセス  
京王線聖蹟桜ヶ丘駅徒歩2分